

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 115
2025.11TOPICS
1

国連大学・岡山市・RCE岡山共催「第14回グローバルRCE会議」にて 岡山大学による公式セッションを開催しフィールドビジットを本学で実施



RCE(地域の持続可能な発展のための教育)発足から20周年を迎える節目の年を記念して、国連大学・岡山市・RCE岡山共催による「第14回グローバルRCE会議」が10月21日から23日にかけて、岡山市で開催されました。横井篤文副学長(グローバル・エンゲージメント担当)・ユネスコチェアホルダーが企画およびモデレーターを務め、高等教育の倫理的フロンティアを切り拓く世界的リーダーたちや国連ユース代表、本学学生が登壇し、意見を交わしました。

翌日に本学で実施したフィールドビジットでは、共創イノベーションラボ(KIBINOVE)をはじめとした学内施設の視察を企画・実施。同会議の参加者30人、関係機関の陪席者13人、実施協力の本学学生8人など、およそ50人が参加しました。

那須保友学長の開会あいさつで始まり、続くプログラムでは、多様なセッションが行われ、参加者の真剣なまなざしと活発なリアクションが寄せられました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14768.html参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14770.htmlTOPICS
2

氏原岳人准教授が 令和7年度(第52回)岡山市文化奨励賞 学術部門を受賞

学術研究院環境生命科学学域(工)の氏原岳人准教授が、11月14日、令和7年度(第52回)岡山市文化奨励賞学術部門を受賞しました。本賞は1974年度に創設され、岡山市の文化向上に貢献した個人や団体を表彰するものです。

氏原准教授はこれまで、全国や岡山県内の地域をフィールドに、持続可能な都市構造や計画手法に関して土地利用解析や交通行動分析等を用いて研究するほか、地域課題の解決のために人々の行動変容研究、さらに、まちづくりに関する実証研究にも数多く取り組んできました。そのいくつかは、岡山市内にて産官学連携のもとで社会実装されており、今後全国的な広がりをみせる可能性が高く、また、地域課題の解決につながる萌芽研究もいくつか進められており、都市計画やまちづくりの分野への適用も将来的に期待できることなど、各方面からの高い評価を得ており、今回の受賞となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14833.html

Pick up!

陸上競技部の石本龍一朗さんがデフリンピックで8位入賞！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id788.html

11月21、22日に駒沢オリンピック公園総合運動場で開催された「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」に本学陸上競技部の石本龍一朗さん(教育学部3年)が男子400mハードルの日本代表として出場し、8位入賞に輝きました！

準決勝では、観客席の部員からの応援コールを背に、隣のレーンのケニア人選手と競りながら組の3位でゴールし、準決勝を7位で通過。翌日の決勝では、満足のいく走りではできなかったものの、レース後に部員と友人による胴上げが行われ、充実した笑顔で大会を終えました。

大会後、石本さんは悔しさを滲ませながらも「トラックに入ると、家族や友人のほかにたくさんの懐かしい方々が見え、勇気をもらいましたし、嬉しさで泣きそうになりました。大変なこともありましたが、これを乗り越えたら最強になるだろうとプラスに捉えて過ごしてきた結果、人生の中でこの1年が本当に楽しい時間になりました。そしてテレビ出演にも慣れました」と笑って話しました。

TOPICS

3

“ぼっけえおもれえ岡山大学祭”を開催！

11月1、2日に津島東キャンパスで令和7年度岡山大学祭を開催しました。一時雨に見舞われましたが、今年度のテーマである「いっ祭がっ祭はしゃぎん祭～ぼっけえおもれえ岡大祭～」のとおり、賑やかな2日間となりました。

キャンパスには、90店舗の模擬店が並び、来場者を呼び込む学生たちの声で活気づいていました。会場内4カ所に設けられた特設ステージは、恒例の音楽ライブやダンス、大学祭実行委員会による企画などで盛り上がり、各種団体の展示やイベントには子供から大人まで大勢の方が集まっていました。

大学祭を振り返り、大学祭実行委員長の前田健佑さん(工学部2年)は「ご支援、ご協力くださった皆さまに、実行委員会を代表してお礼申し上げます。多くの方々にご来場いただき、活気溢れる大学祭となったことを嬉しく思います。大学祭を通して岡山大学の魅力を知っていただけるように精進してまいります」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id784.html



TOPICS

4

資源植物科学研究所の馬教授、山地准教授が
2025年版の「世界で最も影響力のある科学者」に選出！

馬教授



山地准教授

Clarivate Analytics社が発表した高被引用論文著者リスト2025年版において、本学資源植物科学研究所植物ストレス学グループの馬建鋒教授と山地直樹准教授が選出されました。馬建鋒教授は2015年版から11年連続、山地直樹准教授は通算10回目の受賞という快挙となります。

馬教授、山地准教授は、植物の生育に不可欠な各種ミネラルの輸送メカニズムを数多く解明し、「植物・動物学/ Plant & Animal Science」分野において、世界で最も影響力のある科学者として、国際的に高く評価されました。

馬教授は受賞を受け、「年々選出される日本人の研究者が減少する中、11年も連続選出され、大変光栄に思います。これまでにコツコツと地道に努力してきた甲斐がありました。これからも地道に精進します」とコメント。山地准教授は「ゆっくりですがこれからも走り続けます」とコメントしています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14814.html

PRESS
RELEASE光駆動プロトンポンプで体内のがん腫瘍を
消去することに成功～がん治療に光を！～

岡山大学学術研究院医歯薬学域(薬)の須藤雄気教授、小島慧一講師、大学院医歯薬学総合研究科博士課程4年(薬学系)の中尾新大学院生、学術研究院医歯薬学域(医)の富樫庸介教授、大内淑代教授、佐藤恵太助教、岡山大学病院(脳神経外科)の劔持直也医員の共同研究グループは、光に反応して細胞内をアルカリ化させるタンパク質を利用し、マウス体内に存在するがん腫瘍を選択的に光で死滅させることに成功しました。

これまで、がん細胞を死滅させる治療法としては主に薬剤が用いられてきました。しかし多くの薬剤は、がん細胞だけでなく周囲の正常な細胞にも作用してしまい、副作用が避けられないという課題があります。今回開発された「光がん治療法」は、特定の細胞にだけ作用することが可能であり、将来的にはヒトのがんに応用することで、がん細胞のみを選択的に除去できる、副作用の少ない新しい光がん治療法の実現が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1457.html

